区分・種別	県指定有形文化財(建造物)		
名　　称	れいがんじやくしどうないずし　しゅみだん 霊岩寺薬師堂内厨子及び須弥壇　　各1基		
所　在　地	伊予郡砥部町岩谷口		
所　有　者	霊岩寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和39年3月27日		
解　　説	霊岩寺は、正保2（1645）年開山の浄土宗の寺で、ここにある厨子は一間厨子で、桁行76㎝、梁間115㎝、棟高279㎝、入母屋造である。柱は上下に粽（ちまき）を付けた丸柱で、ヤリガンナで削った跡が歴然と美しく残っている。垂木（たるき）は繁垂木（しげるたるき）で二重の扇型をしている。様式は禅宗様で全体として清そな感じを受ける。 昭和36（1961）年解体修理が施された。その際慶安4（1652）年の墨書のある板3枚が発見され、今も元の場所の壁板として使用している。 須弥壇は、幅236㎝、奥行125㎝、高さ90㎝で、数条の溝を彫り鼓形（つつみがた）をなしている。厨子とよく調和した江戸時代初期のものとして貴重である。しかし高欄（こうらん）は原型を失い、現在のものは修理の時に創造したものである。		